

(7) 近畿



近畿地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあり、やや弱含んでいる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

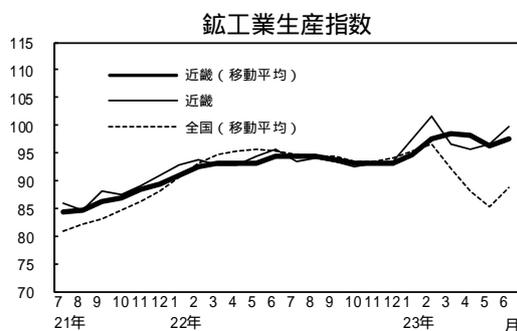
前回調査からの主要変更点

	前回(平成23年5月)	今回(平成23年8月)	
景況判断	東日本大震災の影響により、弱含み	緩やかに持ち直し	
鉱工業生産	東日本大震災の影響により、減少	緩やかに持ち直し	
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに持ち直し	
雇用情勢	東日本大震災の影響により、弱含んでおり、厳しい状況	厳しい状況にあり、やや弱含み	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は電力用のボイラ・原動機が好調であるほか、金属加工機械はアジアの自動車関連向けが活況で、東日本大震災による基幹部品の滞りも解消され、増加している。化学は定期修理期間であったことなどから減少している。食料品・たばこは東日本大震災による原料調達難から徐々に回復してきたため増加している。電気機械は海外向け及び住宅向け需要の低下から減少している。鉄鋼は生産調整や東日本大震災の影響による自動車向けの受注減等により減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	17.0	2.8	7.9	5.7	15.2
化学	14.5	8.5	1.2	2.6	10.5
食料品・たばこ	9.1	4.3	4.0	5.6	8.1
電気機械	8.5	4.3	2.5	3.2	5.0
鉄鋼	7.5	9.6	6.5	5.1	4.2
鉱工業	100.0	6.0	1.2	0.9	4.1

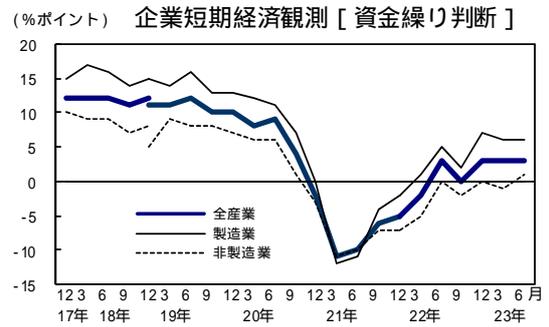
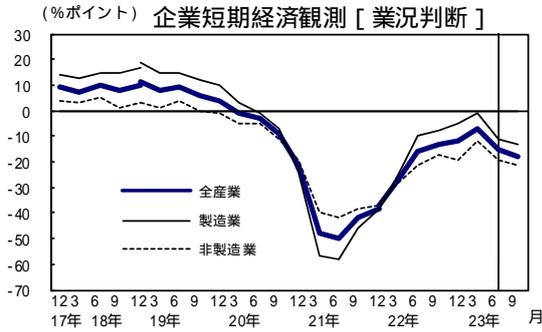
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。

2. 全国及び近畿の大線は後方3か月移動平均。

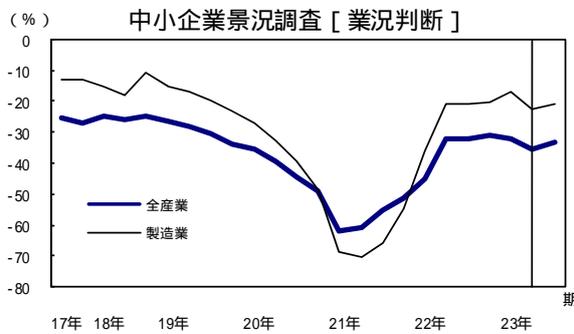
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。23年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。23年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

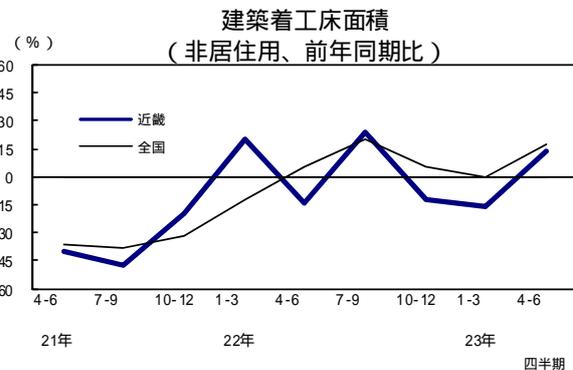
「部署の統合や事務所の縮小など、企業の移転に関する案件が増えているが、通常の業務は増えておらず、業績に変化はない(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	22年度実績	23年度計画
全産業	3.2(4.0)	0.2(2.8)
製造業	5.7(4.7)	2.3(2.1)
非製造業	1.3(3.5)	1.3(3.3)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

大型小売店販売額

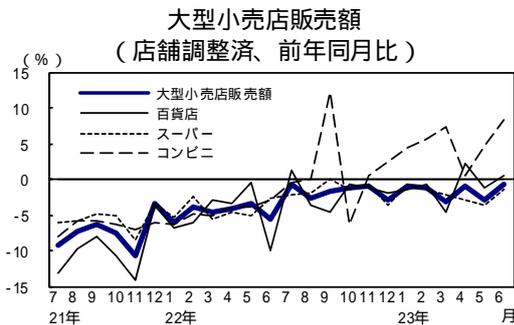
大型小売店販売額は、前年同期比で1.5%減、前期比で1.4%増となった。

百貨店は、4月は、一部店舗の増床・リニューアル効果や気温の上昇にあわせて春物商材を中心に売上が伸び、前年を上回った。5月は、台風による天候不順に加え、新規出店やJR大阪駅全面開業の影響もあり、前年を下回った。6月は、消費マインドの持ち直しとともに、高級時計や特選衣料品などにも動きが見られ、前年を上回った。

スーパーは、天候不順により、夏物衣料が低調であったことなどから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「中元商戦では、食料品の販売量は変わらないが、1品単価が下がっている。宝飾品や時計といった高額品に少し動きは出てきたが、美術品の動きは鈍い(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月
大型小売店(*1)	1.7	1.7	1.8	1.5
百貨店(*1)	2.0	1.3	2.3	0.4
スーパー(*1)	1.5	2.0	1.4	2.7
大型小売店(*2)	1.9	1.3	1.1	0.4
(季節調整値)(*3)	(0.7)	(1.0)	(0.1)	(1.4)
乗用車(*4)	13.8	27.9	24.4	35.2
(季節調整値)(*4)	(7.3)	(32.3)	(5.1)	(16.6)

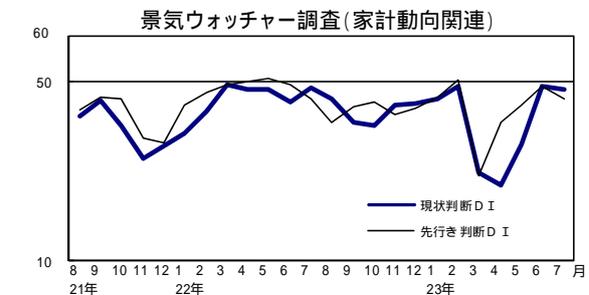
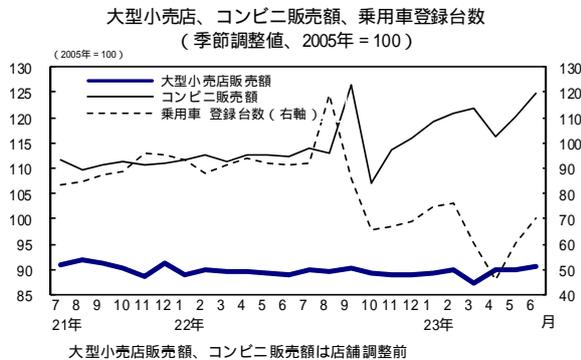
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

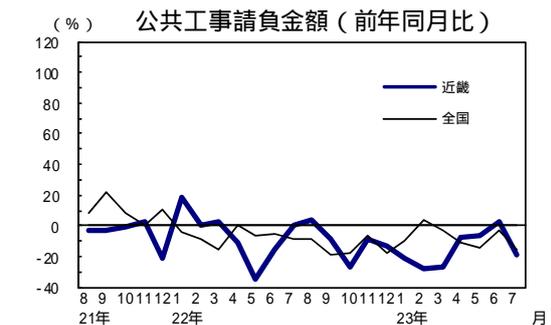
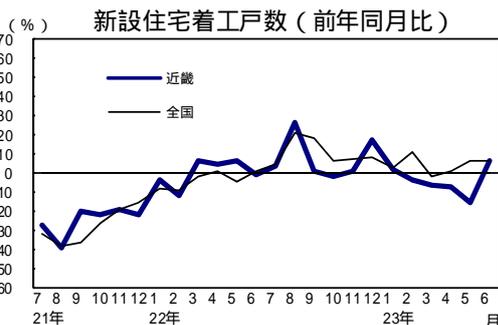
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、分譲などが下回ったことから、減少している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度を下回っている。

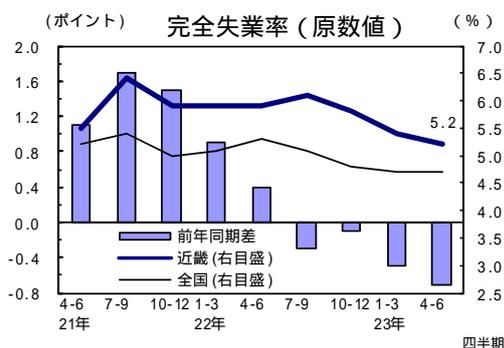
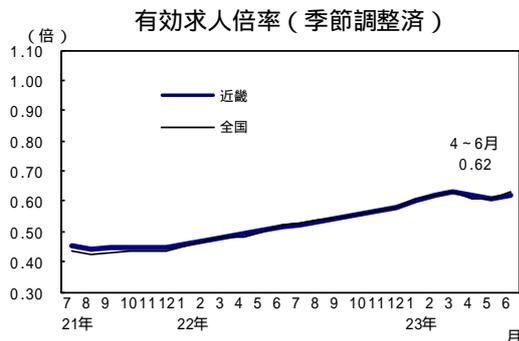


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあり、やや弱含んでいる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

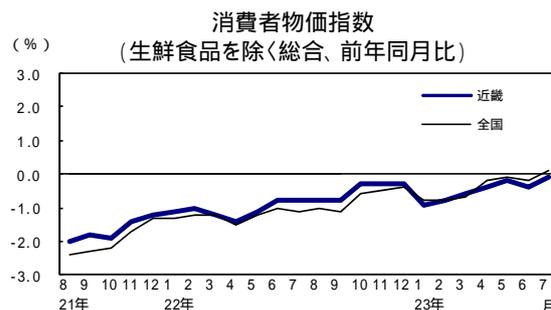
「求人は依然としてフルタイムのパート職が中心となるなど、企業は賃金を抑えるために、正社員ではなく時間給での採用を希望している (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	22年7-9月	10-12月	23年1-3月	4-6月	23年7月
倒産件数	861	964	857	902	285
(前年比)	18.8	2.4	9.3	3.6	4.8
負債総額	1,373	4,179	1,445	1,027	283
(前年比)	16.6	5.4	28.5	38.3	28.0



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・例年は今ごろから盆休みのスケジュールが組まれるが、今年はその動きがない。各社が盆休みを取らず、休暇を分散させる傾向がみられる (人材派遣会社)

<先行き>

・夏休みの予約はますます間際化しており、8月が終わってみなければ結果は分からないが、出足は少し悪い。最近の円高で、客が海外旅行にシフトしていることも影響している (観光型ホテル)

